



夏休み後の適切な対応を！

**新たな不登校を
生まない取組の充実**

休み明けに取り組むこと

①児童生徒の気になる変化を把握する。

- 服装、頭髪の乱れや友人関係の変化が見られる。
- 部活動等への出席状況が悪くなった。
- 家庭生活で大きな変化があった。
- 学習態度や課題等の提出状況が悪くなった。
- 表情が暗くなり、あまり話をしなくなった。
- 遅刻や欠席、保健室への来室が多くなった。

②関係職員で情報共有を行い、早急に支援策を立てる。

・誰がどのような支援を行うか具体的な支援内容を確認する。

③夏季休業明けの教育相談体制を充実させる。

・すべての児童生徒に不安や心配事がある場合は、遠慮なく相談するように呼びかける。

不登校の未然防止と早期発見・早期対応

週1回や隔週に1回など断続的に休みがちな児童生徒へも積極的に関わるが大切です。

- 教員が「本人の状態(欠席日数等)を心配していること」を本人に伝える。
 - 今後の登校に向けての目標を児童生徒とともに考え、保護者とも共有し、連携して対応していく。
 - 全教職員の共通理解のもと、積極的に児童生徒のよいところを伝え、自己肯定感を高める。
 - 保護者へ学校での様子を伝え、家庭でのプラスの声かけをお願いする。
 - 起床や就寝、学習等の生活リズムが整うよう児童生徒と生活について考えるとともに保護者にも協力を呼びかける。
- ※別室登校支援をすることで長期欠席になるのを防ぐことに成功した学校もあります。**

コロナ禍の中、児童生徒が楽しみにしていた行事や集団をつくる取組の中止が、子ども達のイライラややる気の低下にもつながっています。2学期からの教育活動の中で中止となった行事や取組の代替となる活動をできるところから取り入れていきましょう。

